

## 第4回「副町長について」

町長就任以降、副町長を誰にするんですかという質問を受けることがあります。そこで私が考えている副町長の条件は、①行政事務に精通している人、②世情に通じている人、③芯は強いが我を張らない柔軟な思考をする人、④町長の方針は全て正しい訳ではないので、町長を「上手に」いさめることができる人、⑤クレームに対し逃げないで真摯に対応できる人、⑥町が抱えている問題を、期日を決めて一歩ずつ粘り強く町長と一心同体になって解決しようとする人、⑦何よりもこの町は従前のままだとダメだという危機感を強く持っている人―等が挙げられますが、現実にこのようなスーパーマン的な人物にはなかなか巡り会いませんが、継続して探索していきます。

今の役場の問題の一つは、組織が縦割りでセクショナリズムに陥っているという欠点があります。そこに副町長の出番がある訳ですが、現状不在ですので、その解決策として、各課に横串を入れるような組織横断的ポストである「統括課長」を新設しました。当然のことですが、「統括課長」は副町長とイコールではありませんが、町長の意を汲み、全課長を「統括」し、業務全般がスムーズに稼働するよう「クールヘッド・ウォームハート」の精神で指導していきます。そして、「統括課長」のポストを作った効果として、新たに内部昇格した職員がおり、本人のやる気につながると期待しています。また、副町長を置かない期間は、確実に人件費削減につながり、その資金余力を福祉等に回すことにより、少しでも「町民満足度の高い町」に近づけていきたいと思っています。